

「出羽国秋田郡久保田城絵図」県C-173  
写真中央の「侍屋敷」が渋江氏屋敷地。  
右側が広小路。「埋門」の文字も見える。

# 古文書倶楽部

【発行】  
秋田県公文書館  
2018.11  
第86号

## 高度な防御機能を持った武家屋敷

～新文化施設の建設に寄せて～

現在、新たな文化施設の建設が進んでいる旧秋田県民会館・ジョイナスの場所は、江戸時代には秋田藩の重臣であった渋江氏の屋敷がありました。渋江氏は江戸初期の家老である渋江政光をはじめ家老を八人も輩出するなど、要職を務めました。渋江氏の屋敷に関する図面などはないのですが、城下絵図などからは他の武家屋敷にはない特徴を読み取ることができます。

まず他の屋敷地に隣接していません。渋江氏以外の武家屋敷は、必ず他家の屋敷地に隣接しています。渋江氏の屋敷地は、自身の中屋敷が隣の敷地にあるだけです。さらに屋敷地の東側は道路を挟んで梅津氏の屋敷地となっていますが、その他は堀に面しています。

企画展「秋田と海」を二階特別展示室で開催中です。また、第二回歴史講座「企画展「秋田と海」を見る」の参加申込も受付中です。ぜひ、お越しください。

絵図をよく見ると、屋敷地を囲む線が他よりも太い線で描かれていることが分かります。この部分は土塁であると考えられます。旧県民会館の敷地は道路から約4mほど高い場所にあります。「出羽国秋田郡久保田城絵図」(県C-173)を見ると屋敷地西側は中屋敷との間の土塁上と、その外側、穴門に続く土塁の上に堀があったことがわかります。穴門の内側にある門には「埋門」とあります。通常、久保田城の埋門は本丸の東側にあった門を指しますが、埋門とは本来、石垣や土塁などに穴を開けて構築した門を意味するので、特定の門を指した名称ではなかったのかも知れません。また広小路側の堀に面した部分は土塁状に土が盛り上がり、近世の風景を想起させていました。

これらのことから渋江氏の屋敷地は、明らかに他の武家屋敷に比べて堅固な防御機能を持っていたと考えられます。なぜこのような特徴を持っていたのかは不明ですが、久保田城下が整備された当時からこのような構造になっていたことから、初代藩主佐竹義宣の渋江氏に対する信頼感を象徴したものと推測されます。

安永七(一七七八)年に久保田城本丸が焼失した際に、渋江氏の屋敷が藩主の仮御殿とされていることから、他家の屋敷とは違う機能を担っていたと考えられます。

同屋敷地の面積については、「羽後国秋田郡秋田城郭之図」(県C-1254)によれば、上屋敷地の坪数は「式千五百九拾坪八合五勺」と記されています。建物については、江戸後期の渋江氏当主の日記である「渋江和光日記」二七巻文政三(一八二〇)年八月十一日条に、穴門近くにあった中屋敷(史料中では「穴門下屋敷」とともに、建物とその坪数が記載されています)と

### 渋江堅治居宅惣坪数覽

- 四百七坪 本屋 一 五坪半 鎮守宮
- 拾七坪 櫓 一 貳拾貳坪 土蔵
- 參拾七坪 板蔵 一 五百拾七坪 長屋
- 四拾貳坪 厩 一 貳拾參坪 小屋
- 合千七拾坪半
- 壹坪 穴下露臺 一 八拾壹坪半 同所長屋
- 九坪 同所小屋
- 合九拾壹坪半
- 惣坪合六拾貳坪
- 右之通二有之候、已上

八月

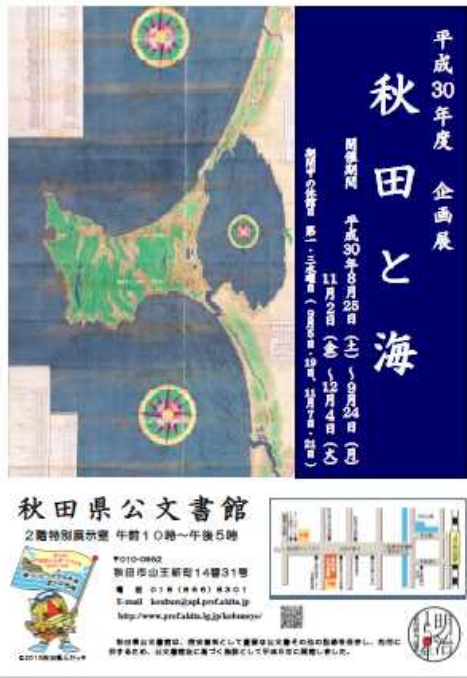
右之内二八、小屋分八八下雪隠も入、長屋分八八荒川宗十郎居候継足之所も入申候、委曲八役所記録二あり屋敷地内に本屋(母屋)の他に鎮守宮・櫓・土蔵・板蔵・長屋・厩・小屋があったことがわかります。このうち最も多くの面積をとっているのが長屋で、渋江氏の住居である本屋よりも大きな面積を占めています。武家屋敷の敷地内であった長屋として現存するものとしては、山口県萩市の旧厚狭毛利家萩屋敷長屋(国指定重要文化財)があります。渋江氏の長屋についてはその様式は定かではありませんが、家臣の宿所などに利用したものと考えられます。

久保田城が明治五(一八七二)年に陸軍により接収された後の様子を示した絵図(「秋田御城絵図」県C-1951)には、渋江氏の屋敷地に「医院病院」という貼紙があります。明治六年の県庁舎火災の際には仮庁舎が置かれたようです。明治三四年の「秋田市詳密地図」(AH二九一・五一五)には「明德小学校」「高等小学校」と記載されています。その後明治三十七年に秋田県公会堂、大正七(一九一八)年に秋田県記念館、昭和三六(一九六一)年には秋田県民会館・秋田県立秋田図書館が建設されました。

新たな文化施設は、同地の小高い地形を削って平地にして建設されるので、築城以来の風景は一変してしまいましたが、明治以降、秋田県の文化の象徴的な地であった場所に設置される施設が、秋田県のみならず日本や世界の文化の発展に大きく貢献することを願ってやみません。

【煙山英俊】

平成30年度企画展  
「秋田と海」のご案内



企画展ポスター  
「海岸絵図」が使われています。

当館では、毎年普及活動のひとつとして、所蔵資料を活用した企画展を開催しています。本年度のテーマは「秋田と海」。前期の展示では多数のご来場を頂きました。十一月二日からの後期展示では資料の一部入れ替えがあります。今回の企画展についてご案内します。

来年初、本県を会場に「第三九回全国豊かな海づくり大会」が開催されます。この大会は、海や川などの自然環境を保全する大切さを訴えるとともに、水産業の振興と発展を図ることを目的に開催され、天皇・皇后ご臨席の式典のほか、海上歓迎パレード、稚魚の放流、特産品販売など様々な行事やイベントが催され、県内外から参加者が集まり盛大に行われる予定です。

そこで、今回は秋田と海に関わる資料を展示するとともに、大会の事務を担当する県水産漁港課全国豊かな海づくり大会推進室と連携して、展示コーナーの一角で大会をPRすることに

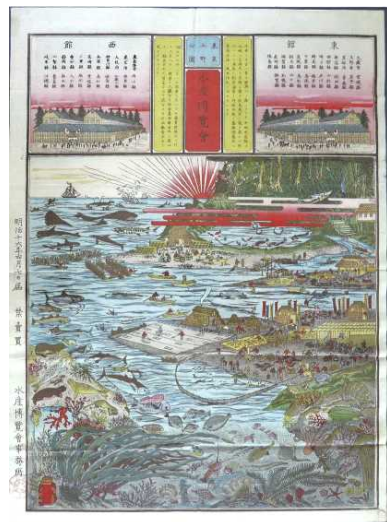
しました。幟のぼり、DVD映像「さかなきた」(DVD-100918)の放映により、展示室が賑やかな雰囲気になっていきます。DVD映像には、秋田の魚と料理が映し出されます。

展示資料をいくつかご紹介します。ポスターやパンフレットの表紙に使われている「海岸絵図」(県C-159八)は複製を展示していますが、縦五・三五m×横二・三五mの大きさと迫力は十分に伝わってきます。青と緑の色彩も鮮やかです。しかし、この地図には不思議なところがあります。よく見ると男鹿の本山、真山、寒風山などの山からいくつもの線が引かれています。一体この線は何なのでしょう。答えは展示室で確認できます。また、「水産博覧会ポスター」は、海にあふれるほどの生き物と浜辺で働く人々が細かく描かれていて驚かされます。海には鯛、平目、鮪などが所狭しと泳ぎ回り、沖には鯨も見えます。海藻の下には貝やヒトデ、岩場には亀やアザラシまです。見ていると何だか楽しくなってきました。拡大したパネルで展示していますので、じっくりご覧ください。



「能代町絵図」(A290-114-114)  
後期展示でご覧になれます。

水産博覧会ポスター



「勸業課農業掛事務簿」  
(930103-07815)

江戸時代から現代に至る資料をご覧になり、「秋田と海」の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

なお、後期展示期間中の十一月二九日に「企画展『秋田と海』を見る」のテーマで第二回歴史講座を開催しますので、ぜひご参加ください。  
【桜庭文雄】

公文書館よりお知らせ

平成30年度企画展「秋田と海」後期展示  
日時 十一月二日(金)〜十二月四日(火)  
(第一第三水曜日は休館日)  
会場 午前十時〜午後五時  
当館二階特別展示室

第二回歴史講座 企画展「秋田と海」を見る  
日時 十一月二九日(木)  
午後一時三〇分〜午後三時  
当館三階多目的ホール  
※事前申込みが必要です。